



第10回総会開く

第10回深澤晟雄の会総会を6月18日沢内バーデンで開きました。総会では27年度事業報告と決算、今年度事業計画と予算が原案通り承認されました。昨年度事業では、深澤晟雄村長没後50周年と沢内病院開設60周年と併せた記念事業の実施、鹿児島県屋久島町との交流、JICA・国際協力機構研修視察団の受け入れに取り組んだ経緯が報告されました。今年度事業では生命尊

今年度は周年事業準備と資料館機能の充実強化

重行政を推進した深澤晟雄村長就任から60周年を迎える来年に向けて、関係団体等による実行委員会を結成して記念事業実施の準備に入ることとしました。併せて来年は深澤晟雄の会設立10周年の節目でもあり、10年の歩みを検証し、記録に残す活動の準備にも取り組みます。昨今の深澤晟雄資料館は国内だけでなく、海外からも注目される「生命尊重の発信基地」として資料館機能の充実強化も総会で確認されました。

病院長が記念講演

総会終了後、西和賀さわうち病院の北村道彦院長による講演が行われました。講演では「みんなの『生命尊重』を合言葉に、健康な町づくりを目指そう」をテーマに「健康寿命を延ばすために禁煙と減塩を」と強調されました。

(写真＝総会の開会行事)



町民の病院は町民の手で

本会恒例の「町民の病院は町民の手で環境整備を」と、西和賀さわうち病院の草刈り奉仕作業を6月25日に行いました。8人で2時間の作業でしたが暑い中ご苦労様でした。

屋久島の会が設立総会

深澤精神を地域づくりに

屋久島深澤晟雄の会設立総会が5月27日に開かれました。設立発起人の有馬千賀子さんの挨拶の後、深澤晟雄精神を学ぼうと映画「自分たちで生命を守った村」を鑑賞しました。総会では、28年度の活動方針として「屋久島深澤晟雄の会は、深澤晟雄さんの功績と旧沢内村の社会

教育から学び、私たちの地域づくりを考えることを目的とする」と設立の趣旨を前置きして次の3点を確認しました。
①西和賀町深澤晟雄の会との情報交換。②屋久島や種子島の人たちに働きかけて会員の確保を図る。③8月と12月に会員交流会を開く。

佐々木 理事長 岩手大学で 深澤生命行政語る



熱弁で講義する佐々木理事長

「深澤精神と実践力に感銘」

本会の佐々木孝道理事長が岩手大学の全学共通教育科目「持続可能なコミュニティづくり実践学」の講師に招かれ、6月8日「自分たちで命を守った村」と題して今年で6年目の深澤生命行政を語りました。

聴講した学生約300人から「深澤精神と実践力に学ぶ」と感銘深い感想が寄せられました。本人の承諾なしで掲載したので匿名とさせていただきます。

現代に通じる深澤精神

法律よりも守らなければならぬ理念があるという思いから、村人の意識を変え、人の心を動かし、様々な改革に取り組んだ村長はとて立派な方だと思つた。今私たちが健康で文化的に生きていることは、深澤村長と沢内の村人のおかげであると感じた。

（人文社会科学部 Iさん）

乳児死亡率が東京で26のとき、岩手県で66、沢内村70には驚いた。これを改善するために深澤村長の積極的な行動はすごいと思つた。現代に通じる「保健・医療・福祉の一体化」は、とてもありがたいことだと感じた。

（農学部 Sさん）

映像資料の最後に「物種あつての命ではなく命あつての物種である」という深澤村長の言葉に深く共感した。高度文明社会にあつて多く

の情報や物質に弄ばれる私たち現代人が一番自覚すべきだからである。夏休みに資料館に行つてもっと深澤精神を知り尽くしたい。

（農学部 Oさん）

深澤晟雄の理念は最終的に日本全国に広がり、戦後

信念貫く行動力に感動

深澤さんの政策ですごいのは乳児医療費無料化である。全国初の試みで多くの壁に当たりながらもこの政策を達成したのである。住民の命を第一に考える深澤さんの行動力を見習いたい。

（農学部 Aさん）

乳児死亡率ゼロをめざして実際に成し遂げた深澤さんにとっても感銘した。私だったら失敗のリスクの高い行動は避けてしまふが、深澤さんはそれを一切考えず、村の将来のために自分の人

の人口成長と社会福祉の向上に繋がっている。子どもを命を重視する深澤の歩みは、少子化が進む今日にも非常に参考になり、子どもを健康に育てることは、社会の未来と大きく繋がっていると思う。ぜひ資料館にも行つてみたい。

（人文社会科学部 Rさん）

（教育学部 Iさん）

深澤さんが残した言葉の数々は現代の我々にも大変意味のあるもので大切にしてほしい。また、深澤さんのさまざまな切り口から物事を見る眼は我々も見習わねばならない。今、行つていない勉強を未来に生かし、深澤さんのように地域のためになる活動をしたい。

（理工学部 Kさん）